

大田第三中学校生徒のみなさんへ
朗読劇「サヒメの大使命～海を越え石見の大地へ」を観劇して

大田市演劇サークル劇研「空」

秋の一大イベント、文化祭も終わり、静かな学校生活がつづいていることでしょう。

今年も全校劇に取り組み、その成果を文化祭で見せていただきました。全校で13名という少人数ですが、工夫された多彩な舞台発表や研究発表、展示など短期間で見事に完成されたことに、今年も感銘を受けました。「一人一人が主人公」という言葉が現実には生きているのを実感しました。未来を創る若いみなさんの生き活きとした活動を目の当たりにすることは、とても励みになります。

遅くなりましたが、朗読劇の感想を文章にしてお送りします。何かの参考にしてください。



朗読劇では、冒頭でマイクを通した音声が聞こえず、肝を冷やしました。このまま最後までつづいたらどうなるかと不安になりました。マイクの使い方の重要性は練習の時も何度も指摘していたからです。しかし、すぐ気が付いて、マイクのスイッチが入り、しっかりした声がスピーカーから聞こえ始めたときには、思わず「いいぞ！」と心の中で叫びました。

舞台では思わぬことが起きるものです。気が付いて直ぐ修正したり、助け合ったりできるということはとても大切な力です。機転が効くためには、冷静さと協力と応用力が必要です。ぼくの不安は、直ちにみなさんへの感心と賞賛に変わりました。

全体的に練習で積みあげてきた成果がよく発揮された舞台だったと思います。「誰かにやらされている」受動的な朗読ではなく、「自分の内面から沸き上がってくる」主体的な姿勢がありました。そこから迫力や緊迫感、臨場感が生まれ、余裕や豊かな応用力が生まれて来ます。それは演劇を成り立たせる重要なエレメントです。そして何をする場合にも大切なことだと思います。学校として全校演劇に取り組みされる意義の一つも、そこにあると思います。

以下、今回観劇したり支援に参加したみなさんの感想を紹介します。

「三中生のみなさん、お疲れさまでした。本番しか見ることができませんでしたが、落ち着いて堂々とした朗読劇でした。練習の成果が出たのだと思います。それぞれの役の個性も出ていま

したし、台本から目を離してもセリフが出るくらい、しっかり練習されたんだなと感じました時間を感じさせない楽しい朗読劇でした。(劇研「空」田中和子)

「お疲れ様でした。文化祭の舞台公演を見に行けなくて、残念でした。3日間、学校に行かせてもらいましたが、皆さんの演技や声がどんどん良くなっていくのを感じていました。きっと想いのこもった朗読劇になったと思います。これを機会にふるさとの民話や物語に興味を持ってもらえると嬉しいです。ありがとうございました。(劇研「空」山本和之)

「サヒメの大使命の朗読劇、お疲れ様でした。1週間前の練習から、こんなに上達されたんだなあ、と感心しました。間の取り方、テンポ、声の大小、それぞれ工夫しながら、効果的に朗読されていて、皆さんの感情がよく伝わってきました。さすが、三中の皆さん！とても良かったと思います。



欲を言えば、シーンの中で1回でもいいので、顔を上げてもらえると、伝わる印象ももっとよくなるように感じました。あと、音響(マイクやBGM)をもう少し調整できるとよかったかなあと、感じました。短期間で、ここまで仕上げられたのは、皆さんが本当に頑張って取り組まれた成果だと思います。生徒の皆さん、共に取り組まれた先生方、本当にお疲れ様でした、そして素敵な舞台劇を観させていただき、ありがとうございました。(劇研「空」吉川礼子)

「文化祭お疲れさまでした。お稽古の際、先生が準備を促すと「もう、できてます」と生徒さんが言われたとき、きつこの作品は素敵なものになる！と思いました。三中の皆さんは、自ら考えて、工夫することがすでにできていると感じたからです。

声の大きさ、テンポ、表現の仕方…2回目に皆さんにお会いしたとき、数日でこんなにも変わるのかと感動しました。計り知れない伸び代に、ワクワクしながらお稽古に参加させていただきました。先生方の熱心なご指導や支援があるからこそ、生徒の皆さんも思いっきり取り組めたのだと思います。

人前で表現することは勇気のいることです。頑張った自分の心と身体を褒めてあげて欲しいです。そして、協力し合って認めあって作品を作り上げた経験が、この先、三中の皆さんの支えになれば嬉しいです。

朗読は楽しかったでしょうか。やりすぎぐらいが調度いいです。怖がらないで、いろんなことにチャレンジしてください。ありがとうございました。(ジュニアミュージカル風花 山内理緒)

2021年11月8日

大田市演劇サークル 劇研「空」代表 洲浜昌三